

### 3 学校評価システムの全体像と実践の流れ

ここでは、これからの学校評価の全体像を明らかにして、おおまかな実践の流れを事例を交えて紹介します。

学校評価は、一般に次のような過程を経て行います。

- (1) 組織をつくる。
- (2) 教育目標等に基づき課題を把握して重点目標を定める。
- (3) 重点目標の達成に向けて、具体的な目標及び評価項目を設定し、教育活動や学校運営の実施計画を立案する。
- (4) 具体的な目標や評価項目を踏まえながら、計画を実行する。
- (5) 実行の過程や結果を評価する。
- (6) 評価結果をもとに改善策を設定し、次の計画や実行につなげる。

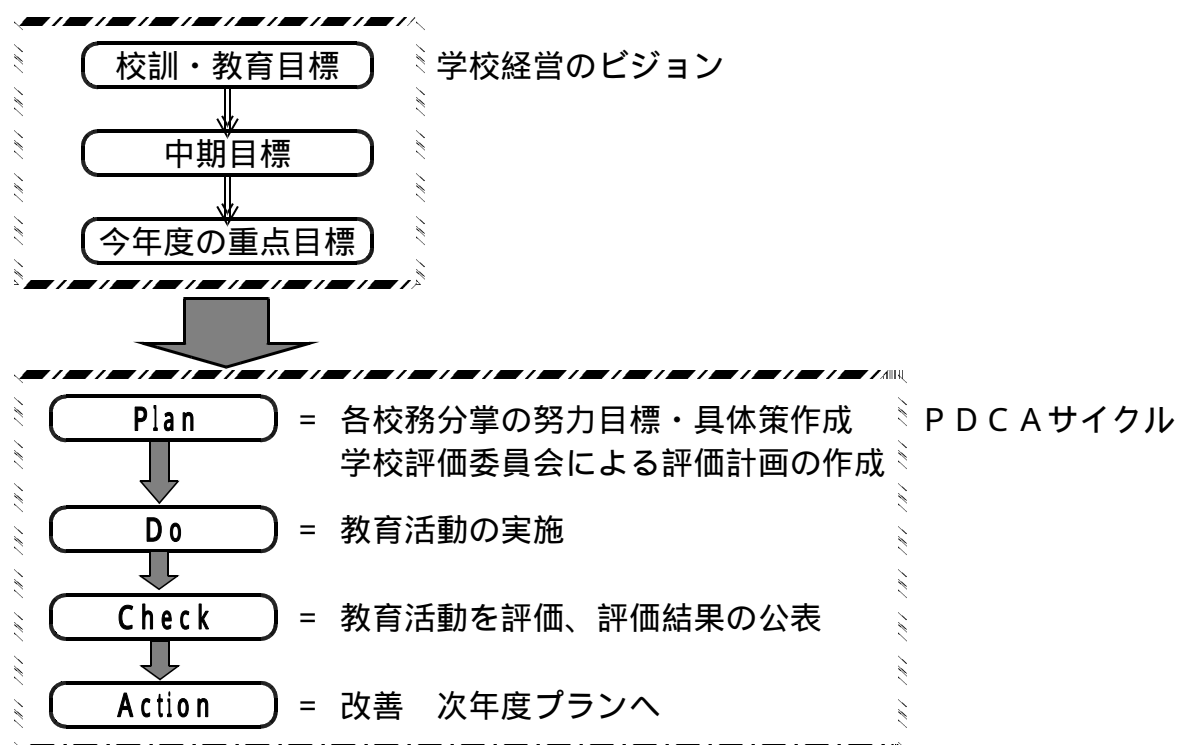
このような学校評価を組織的に行う、システムの全体像を模式図にすると、下図のようになります。

まず、校訓や教育目標などをもとに、今年度の重点目標を設定するという、「学校経営のビジョン」を明らかにします。

次いで、各校務分掌ごとに努力目標や具体策を作成し、学校評価委員会は評価計画を作成します。そして、これらの目標達成に向けて教育活動を実施し、その教育活動を評価します。この際、教職員が行う自己評価を中心に据えながら、生徒、保護者などの評価も取り入れます。評価結果はすみやかに公表し、学校評議員からは意見を聴取します。また、課題が残った事柄に関しては、必ず改善策を検討し、次年度のプランに反映させます。

このサイクルを繰り返し、教育活動や学校運営の改善を図っていきます。

#### 学校評価システムの全体像



## ➡【事例】

学校評価システムの全体像に関連して、1年間の実務の流れと様々な評価の具体例を示します。

### 〔事例3 - 1〕学校評価の概要

#### (1) 学校評価を推進するための組織について

学校評価委員会 構成	小委員会の構成
・校長、教頭、教務主任 ・8名の教諭 ・必要に応じて教科主任	・評価班 ・シラバス班

#### [ 学校評価委員会の役割 ]

- ・学校評価に必要な年間計画、評価項目、評価の判断基準などを企画立案する。
- ・学校評価の実施・集計を行い、さらに、改善につなげる分析・考察を行う。

#### [ 取組のポイント ]

- ・基礎学力の向上が、本校にとって最も重要な課題であることから、必要に応じて教科主任を加えられるような組織とした。
- ・小委員会としてシラバス班を設置し、生徒による評価のシステムの基盤づくりに取り組んだ。

#### (2) 学校の重点目標の設定

生徒の基本的な生活習慣の確立に努めるとともに、基礎学力の向上充実を図る。  
自己研鑽・相互研鑽・学校評価の研究等を通して教科指導力の向上を図る。

#### [ 取組のポイント ]

- ・確実に改善につなげられるよう、単年度の課題とせず、3か年継続で取り組むこととした。

#### (3) 学校評価の流れ

- ・いわゆる組織マネジメント手法の一つである「目標による管理」をベースとして取り組むこととした。
- ・各年度の具体的な取組のよりどころとなる重点目標を設定する。
- ・経営目標・重点目標を、各部・係、学年、教科ごとの目標として具体化する。

#### [ 取組のポイント ]

- ・目標、実践、評価、改善の一連の流れが一つの評価表にまとめられる形式とする。
- ・目標は、測定・評価が可能となるように設定する。
- ・各部・学年だけでなく教科も加えることで、学校全体の取組となるようにした。
- ・最終的には、年度末評価において具体策に集約できるようにした。
- ・学校評価アンケートでは、生徒、保護者、教師の認識のずれを把握するため、項目をしばり、評価結果はすべて公表した。
- ・学校評議員には、これらの評価結果を示し、教育活動や校務運営の改善のための意見を聴取した。

〔事例3 - 2〕 各教育活動ごとの評価

(例) 学習合宿アンケート(評価者: 参加生徒)

Plan	( 各学年での実施計画、進路指導部の支援計画、アンケート作成 実施時期: 4月~7月
Do	( 各学年ごとの実施 実施時期: 8月上旬
Check	( 終了後、アンケートのすみやかな実施とまとめ 年度末評価で改善策を策定 実施時期: 1月下旬~2月中旬
Action	次年度改善策の実行

参加生徒対象のアンケートと結果(104名 目標120名) \* 数字は実数を表す。

(満足度など)

合宿に参加して		次回は	
a 良かった	6 1	a 参加したい	6 6
b まあまあ	3 2	b わからない	2 2
c 良くなかった	1	c 参加したくない	6

(記述の意見)

- ・この合宿を通してがんばった点・良かった点  
集中して学習できた。集中力が身に付いた(23)。皆のがんばる姿勢に刺激され、自分もやらないといけないという気持ちになりがんばれた(22)。

各部・学年・教科の努力目標・具体策の作成、年度末評価

(進路指導部)

努力目標	具体策	評価	分析・考察・改善策
<ul style="list-style-type: none"> <li>・早期に進路に対する意識を高め、低学年から進路行事を実施する。</li> <li>・学年、教科、学習指導部等との連携強化に努める。</li> </ul>	学習合宿を全学年で実施し、早期の受験体制づくりを支援する。		学習合宿を全学年で実施できたことはよかった。 学習合宿の全学年での実施は継続させたい。

(第3学年)

努力目標	具体策	評価	分析・考察・改善策
基礎学力をもとに応用力の定着を図り、自己の進路実現を果たす。	学習合宿は、半数(約120人)以上の参加をめざす。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ほぼ目標の人数を集めることができた。</li> <li>・生徒向けに前宣伝した方がよい。</li> <li>・募集方法を工夫する。</li> <li>・学年別に実施を検討。</li> </ul>

〔事例3 - 3〕 授業評価  
(評価者：生徒)

Plan	{	<p>学校評価委員会（評価班）による検討と授業評価票の作成          実施時期：前期 4月～7月初旬（打合せ確認1回）          年度末 1月初旬（打合せ確認1回）</p>
Do	{	<p>授業評価票を用いて評価の実施          実施時期：前期 7月中旬から下旬          年度末 1月下旬          年度末評価の実施・分析・考察          実施時期：前期 7月下旬（集計後分析のための打合せ1回）          年度末 2月</p>
Check	{	
Action	{	<p>授業評価の報告（職員会議）          実施時期：前期 9月下旬          年度末 3月</p>

授業評価票  
(ある教科の例)

<p>評価票の項目ごとの分析</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・あなたのこの授業に臨む姿勢はどうか。              意欲的に参加している。      真面目に参加している。              あまり集中できない。      意欲が持てない。</li> <li>-----</li> <li>・ と を合わせた割合が89%(7月)から97%(1月)へと8%増えた。</li> <li>-----</li> <li>・全体として、この授業の満足度はどの程度ですか。              非常に満足である。      満足である。      どちらでもない。              不満である。      非常に不満である。</li> <li>-----</li> <li>・1月においても と の不満を訴える割合は3%と低いが、 のどちらでもないが50%を占めている。これは2学期以降の授業内容が難しくなっているのに対して、授業の工夫や配慮が不足している結果と受け止めている。</li> </ul>
<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学年の進路指導との連携の効果が見られ、進路意識が高まるとともに、授業の取組も良くなってきている。</li> </ul> <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「進度」と「理解度」のバランスをとることが求められる。「授業の満足度」を高めることが解決の鍵になる。</li> </ul>
<p>次年度に向けた改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業での理解が十分でない生徒に対する対応として、テスト前の個別指導を実施したい。</li> <li>・基礎基本の定着については、定期テストごとの課題を明確にして、ノートの提出を促すなどの指導の効果があつた。次年度も継続する。</li> </ul>

各部・学年・教科の努力目標・具体策の作成、年度末評価

(学習指導部の例)

努力目標	具体策	評価	分析・考察・改善策
基礎学力の充実と学習意欲の啓発に努める。	個に応じた指導方法を工夫し、各種テストの効果的活用・習熟度別授業や課外授業の工夫など		<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の学力差の拡大が課題である。</li> <li>習熟度別授業は、理解度の高い生徒に対する効果は見られた。</li> <li>土曜日課外への参加が良かった。</li> </ul>
			<ul style="list-style-type: none"> <li>習熟度別授業が理解度の異なる生徒の間でどのような効果があるかさらに研究を進める。</li> <li>課外授業参加を促すために、魅力ある授業の工夫をすすめる。</li> </ul>

(学年の例：第2学年)

努力目標	具体策	評価	分析・考察・改善策
進路の目標を早期に明確化して、生徒の学力を向上させる。	課題などを通じて次年度の入試に向けた学習の習慣化を図る。		理系で数学、化学の課外を実施できた。
			3年生の状況など進路情報を適切に伝え、課外の必要性を理解させる。

(教科の例：理科)

努力目標	具体策	評価	分析・考察・改善策
魅力ある授業を展開し、知的好奇心や探究心を喚起する。	生徒の実態を把握し、指導内容の精選・集約を図る。		<ul style="list-style-type: none"> <li>授業評価や学習実態調査を通して生徒の様子は的確に把握できた。</li> <li>問題集用ノートや小テストにより、実態把握に努めた。</li> </ul>
			<ul style="list-style-type: none"> <li>授業評価や学習実態調査の結果を分析し、改善策に反映させる。</li> </ul>
	単元ごとに生徒が活動できるような場面を設定したり、話題を提供する。また、コンピュータの活用も図る。		<ul style="list-style-type: none"> <li>授業に変化をもたせたり、生徒が主体的に活動できる場面を設定できた。</li> <li>パソコンを使った授業を2回程度実施できた。</li> </ul>
			<ul style="list-style-type: none"> <li>実習的な活動場面を設定して生徒の意欲をさらに喚起する。</li> <li>コンピュータの活用についても研究する。</li> </ul>

〔事例3 - 4〕 学校評価アンケート

(評価者：教職員、生徒、保護者)

Plan	{ 学校評価委員会による学校評価アンケートの検討 実施時期：11月～12月中旬(評価班による6回の小委員会)
Do	{ 学校評価アンケートの実施 実施時期：12月下旬
Check	{ 学校評価アンケートの分析、年度末評価の実施、分析・考察 実施時期：1月～2月中旬
Action	{ 学校評価アンケートの公表、改善策の策定(PTA会報) 実施時期：3月

学校評価アンケート

・教職員と生徒については から の4段階、保護者については を加えた5段階の評価としている。

よくあてはまる                      ややあてはまる                      あまりあてはまらない  
 まったくあてはまらない                      判定できない(保護者)

\* ここでは、生徒・保護者・教師の間で評価結果の差が大きかった次の1～4の四つの項目の結果を示す。

1 校則や社会のルールを理解して行動している

	よくあてはまる	ややあてはまる	判定できない
(生徒)	24%	53%	-
(保護者)	9%	44%	14%
(教師)	6%	41%	-

(分析・考察)

- ・生徒の意識は、教師や保護者と大きなずれがある。
- ・学校と家庭の連携を密にしながら指導していきたい。

2 教職員の対応は親切で誠意がある

	よくあてはまる	ややあてはまる	判定できない
(生徒)	12%	44%	-
(保護者)	33%	44%	13%
(教師)	57%	37%	-

(分析・考察)

- ・教職員の努力が、生徒に受け止められていない
- ・生徒側に立った指導やサービス面で現状を見直す必要がある。

### 3 生徒の悩みや相談に親身になって応じてくれる

	よくあてはまる	ややあてはまる	判定できない
(生徒)	11%	22%	-
(保護者)	24%	41%	25%
(教師)	52%	33%	-

(分析・考察)

- ・進路指導と生徒指導の両面から、担任の行う面談を充実させてきたが、十分に反映されていない。
- ・生徒の悩みの変容など今までにない課題に学校全体で取り組む必要がある。

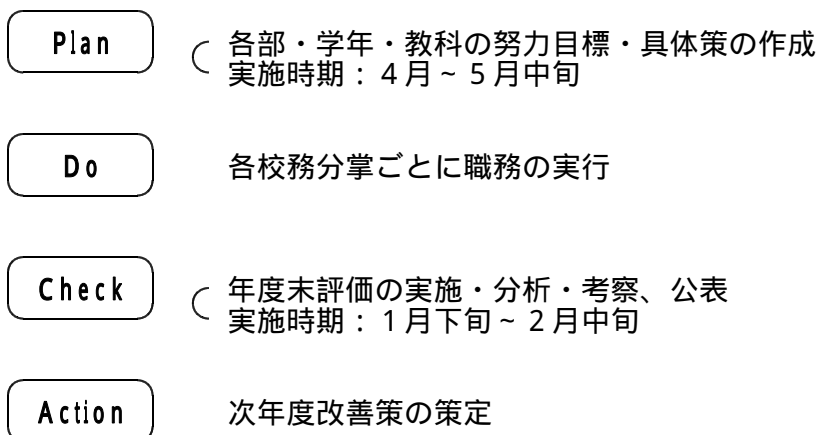
### 4 教職員はPTA活動に協力的である

	よくあてはまる	ややあてはまる	判定できない
(保護者)	24%	34%	32%
(教師)	48%	44%	-

(分析・考察)

- ・PTA活動についての学校からの情報が十分でないことがうかがえる。
- ・PTA総会・学年部会等の出席率のアップをめざしたい。

〔事例3 - 5〕 年度末評価  
(評価者：教職員)



評価表の形式(抜粋)

- ・4月の段階では、次の表のように評価表を作成して、年度末に4段階の評価と、分析・考察及び改善策を記述してまとめる。
- ・様々な評価者による評価の結果も、最終的にはこの評価票に反映される。このため、従来の年度末反省とは異なり、具体的な目標と評価結果に基づいて、分析・考察、公表、改善策の策定に取り組むことができる。

(学習指導部の例)

努力目標	具 体 策	評価	分析・考察・改善策
1 教科指導の充実を図る	(1)基礎・基本を踏まえたわかりやすい授業を工夫し授業研究を進める。		上段は反省・課題を記述する ----- 下段は改善策を記述する。
	(2)各種テストの迅速な処理と事後指導の充実をめざす。		
	(3)授業時間の確保のため、チャイムとともに授業を始める体制づくりに努める。		
2 基礎学力の充実と学習意欲の啓発に努める	(1)個に応じた指導方法を工夫し、各種テストの効果的活用・習熟度別授業や課外授業の工夫などを行う。		-----
	(2)自主学習の定着をめざし、放課後や土曜日の学校利用・漢字コンクールなどの取組を積極的に進める。		
	(3)学習実態調査の検討とその有効利用をめざす。		
3 総合学習の推進と検討を進める	(1)学年正副担任・係の連携と協力のもとに、1年生の総合学習の充実をめざす。		-----

A：達成できた

B：ほぼ達成できた

C：あまり達成できなかった

D：達成できなかった